

1. 東日本大震災からの早急な復旧復興

県北浄化センター汚泥の全量搬出に向けた監視体制の継続。除染対策、放射線対策健康管理、農産物の検査体制の維持と風評被害払拭。

2. 安全安心な町政の実現

防災訓練や各地区自主防災会連絡協議会への支援の継続。

3. 活力ある町政の実現

農商工一体の町民が集える交流の場（道の駅）の整備。交流人口の増加を目指した「まちづくり交流推進事業」の展開。農業の6次化^{*}の推進。各種のイベントの実施。

4. 思いやりのある町政の実現

旧大木戸小の廃校活用。屋内遊び場、預かり保育、放課後子どもクラブの運営など子どもの育成。生きがいデイサービス、いきいきサロン、介護予防など高齢者事業の推進。

5. 町の継続的な維持発展

地方創生総合戦略に位置付けた事業や歴史を活かしたまちづくり事業への取り組み。町内外への情報発信を強化。国・県など関係機関との連携。

^{*}6次化とは 農業が食品加工や流通販売にも業務を展開すること。

施政方針に対する質問

佐藤定男議員

「しんか」という

言葉に込めた町

長の思いは

問

「国見の未来をつくる5つの目標」を少しでも「しんか（進化・深化）」できるよう鋭意対応していく、とのことだったが、「しんか」という言葉に込めた思いを伺う。

町長

これまで「集中復興期間」のまちづくりに対し、町長就任1年目は「復旧」、2年目は「再生」、3年目は「創生」、4年目は「しんか」をイメージして対応してきた。「国見の未来をつくる5つの目標」にしたがって事業を進めてきて、大震災からの復旧・復興や再生・まちづくりに少しづつ光が見えてきたと感じている。その光を大き

除染対策はどう進めていくのか

問

町の除染は、現在めば完了なのか。今後対象の拡大を考えているのか。

原発災害対策課長

どこまでも取り組むのかについて現時点で明確に示すことはできない。平成28年度も引き続き道路や生活圏の森林の除染などに取り組むことになっている。

環境省では除染の加速化を図り、平成28年度には市町村の除染を終了したいとしており、一定の方

くしたい、前に進めたい、付加価値をつけたいという思いで「しんか」とした。

向性が見えてくるものと考えている。新たな課題として里山除染の方針が示されれば町としての考えをまとめることも必要となる。最終的に、仮置場で保管している除去土壌等がすべて中間貯蔵施設に搬出されない限り除染関連事業は完了しないものと考えており、長期的なスパンでの取り組みになると認識している。



道路除染も順調に進められている

風評被害払しょくの今後の対策は

問

風評被害の払しょくは相手の意識の問題もあり時間のかかる難しい問題だが、今後どのような対策を取るのか。また、新たな対策はあるのか。

産業振興課 長

まずは放射線対策を徹底し、

安全安心を積極的に内外に情報発信していくことが必要であると考えている。健康管理調査や農産物の検査体制の維持などで安全安心を担保するとともに、トップセールスや農産物の交流PR事業、東京くのみ会や女性応援団ツアーなどの事業も積極的に進めていく。

また、道の駅を核とした交流の場のオープンに先駆けて開催しているくのみ市場やまちづくり会社による米やモモなど特産品のブランド化、6次化など付加価値をつけた製品の情報発信や全国販売に向けた展開も新たに必要と考えている。

4大イベントは今後も継続させるのか

問

震災後5年が経過して財政も厳しくなる中、国見ルネサンス、義経まつり、きずなイルミネーション、フードフェスタの4大イベントは今後も継続させていくのか。

町長

町の今後の維持発展には活力・元気がなくてはならない。財源については非常に重要な課題と認識しているが、国や県とうまく調整しながら、何らかの形で4大イベントを継続的に実施できるように配慮したい。

奥山邸周辺整備の具体的な計画はあるか

問

「歴史を活かしたまちづくり」が町の継続的な維持発展には欠かせない。阿津賀志山防塁は、整備基本構想概要版では平成29〜34年度にかけて下二重堀周辺を整備するとしているが、奥山邸の周辺整備については具体的な計画はあるのか。

企画情報課 長

歴史まちづくり計画に沿い、阿津賀志山防塁周辺の整備は現在検討委員会で進めている。奥山邸の周辺整備については、下二重堀の整備後に計画を策定し、具体的な整備に入る。

復興創生期間へ向けての町長の思いは

問

震災後、この3月までの5年間は集中復興期間として様々な施策を行ってきた。今後5年間は復興創生期間として進められるが、改めて町長としての決意、思いを伺う。

町長

町民主役を意識し、「オール国見」で震災復興や再生まちづくりに対応し、町として皆さんと連携し、町の中をしっかりと固めることが重要だと考えている。一方で、町が孤立しないよう、国や県をはじめとする様々な関係機関と連携した外向きの対応で交流人口を拡大することにより、人口減少の歯止め

にもつながると考えている。

「復興・絆、交流・連携―国見の未来をみんなでつくる―」の思いをベースに、復興創生期間において復興の光を大きく「しんか」させることにより、町の維持発展に鋭意対応していく。

人 事

大木戸財産区管理委員に7人を選任

大木戸財産区管理委員の任期満了により、次の7人の選任に同意しました。

佐藤 秀昭氏(貝田)
岡田 盛雄氏(貝田)
武田 将幸氏(大木戸)
松浦 節夫氏(大木戸)
渡部 勝利氏(高城)
蓬田 正氏(高城)
松浦 幹男氏(西大枝)



フードフェスタでも大人気の国見バーガー